令和４年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
成果報告書

団体名		一般財団法人住友生命福祉文化財団
施設名		住友生命いずみホール
助成対象活動名		公演事業・人材養成事業・普及啓発事業
内定額(総額)		20,024 （千円）
	公演事業	16,484 （千円）
	人材養成事業	628 （千円）
	普及啓発事業	2,912 （千円）

（１）令和４年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	アンドレアス・シュタイアー＆アレクサンドル・メルニコフ	令和４年４月６日 住友生命いずみホール	シューベルト：6 つの大行進曲とトリオ 第 3 番 D 819/3、4 つのレントラー D814、 6 つのポロネーズ　第 1 番 D824/1、創作主題による 8 つの変奏曲 変イ長調 D 813、幻想曲 ヘ短調　D 940 他	目標値 実績値	501 313※
2	いずみシンフォニエッタ大阪　第 48 回定期演奏会	令和４年７月２日 住友生命いずみホール	出演：飯森範親（指揮）、丸山泰雄（チェロソロ）、呉信一（トロンボーン）、松田信洋（ホルン）、潮見裕章（チューバ）、碇山典子、佐竹裕介（ピアノ）／山本　毅、細江真弓（打楽器） 曲目：クセナキス：ノモスアルファ（チェロ独奏）、リネアアゴン（金管トリオ）、Aroura（弦楽アンサンブル）、Palimpsest ／バルトーク（川島素晴編）：2 台のピアノと打楽器のための協奏曲	目標値 実績値	425 412
3	山田和樹・シューベルト交響曲全曲演奏会（１）関西フィルハーモニー管弦楽団	令和４年９月８日 住友生命いずみホール	シューベルト： 交響曲第 1 番ニ長調 D82、 ホ長調断章 D729 第 1 楽章 第 7 番　ロ短調　D759「未完成」	目標値 実績値	501 522
4	山田和樹・シューベルト交響曲全曲演奏会（２）大阪交響楽団	令和４年９月９日 住友生命いずみホール	シューベルト： 交響曲第 2 番変ロ長調　D125 第 6 番ハ長調　D589 第 4 番ハ短調「悲劇的」D417	目標値 実績値	501 500
5	山田和樹・シューベルト交響曲全曲演奏会（３）　日本センチュリー交響楽団	令和４年９月 10 日 住友生命いずみホール	シューベルト： 《アルフォンゾとエストレッラ》(D732) 序曲 交響曲第 3 番ニ長調　D20 イタリア風序曲　ニ長調　D590 交響曲第 5 番変ロ長調　D485	目標値 実績値	529 600
6	山田和樹・シューベルト交響曲全曲演奏会（４）　大阪フィルハーモニー交響楽団	令和４年９月 12 日 住友生命いずみホール	出演：小林美樹（ヴァイオリン） シューベルト： ヴァイオリン小協奏曲ニ長調　D345 交響曲第 8 番ハ長調　D944「ザ・グレート」	目標値 実績値	529 622
7	フランス・オルガン音楽の魅惑（２）　トマ・オスピタル	令和４年 11 月 19 日 住友生命いずみホール	ボエリ：幻想曲とフーガ変ロ長調　op.18-6 フランク：コラール第 2 番　ロ短調 ヴィドール：オルガン交響曲第 6 番 op.42-2 より ラヴェル：マ・メール・ロワ エスケシュ：エヴォケーションⅡ デュリュフレ：オルガン組曲 op.5 オスピタル：即興演奏	目標値 実績値	501 515
8	いずみシンフォニエッタ大阪　第 49 回定期演奏会	令和５年２月 11 日 住友生命いずみホール	出演：鈴木優人（指揮、チェンバロ、ピアノ） ビーバー：Battalia ケージ　：プリペアドピアノ協奏曲 メンデルスゾーン（鈴木編）：真夏の夜の夢 川島素晴：室内管弦楽のためのスタディ「Jingle-Tree / Sweet Messenger」（委嘱新作）	目標値 実績値	458 644
9	ロータス・カルテット	令和５年２月 24 日 住友生命いずみホール	ハイドン：弦楽四重奏曲第 76 番《五度》 メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲　op.80 シューベルト：弦楽四重奏曲第 14 番 D810《死と乙女》	目標値 実績値	462 555

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（２）令和４年度実施事業一覧【人材養成事業】

<table>
<tr><th rowspan="2">番号</th><th rowspan="2">事業名</th><th>主な実施日程</th><th rowspan="2">概　要
（演目、主な出演者、スタッフ等）</th><th colspan="2" rowspan="2">入場者・参加者数</th></tr>
<tr><th>主な実施会場</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">ミシェル・ブヴァール
オルガン・マスタークラス</td><td>令和 4 年 11 月 20 日</td><td rowspan="2">講師：ミシェル・ブヴァール
通訳：宇山＝ブヴァール康子
受講生： 平野由衣、佐藤謹然、橋本晶子、松井公子、塩澤真輝、山司恵莉子（30 歳以下のオルガニストを目指す若者）
課題曲：フランクの作品
３つのコラール、カンタービレ ロ長調、英雄的小品ロ短調、前奏曲，フーガと変奏曲ロ短調、祈り嬰ハ短調、パストラーレ ホ長調、交響的大作品</td><td>目標値</td><td>100 名</td></tr>
<tr><td>住友生命いずみホール</td><td>実績値</td><td>受講生
5 名
聴講生
57 名</td></tr>
</table>

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（３）令和４年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	いずみ子どもカレッジ 2022	令和 4 年 8 月 6 日 住友生命いずみホール	出演：西村早織（ソプラノ）、市川泰明（テノール）宮田晴奈（ヴァイオリン）、西村利香（フルート）、長谷川稚紗（クラリネット）、津田のの（トランペット）椴山さやか（ピアノ） 演目：音楽劇「ブレーメンの音楽隊」	目標値 実績値	600 352※
2	第 19 回　住友生命いずみホール夢コンサート	令和 4 年 10 月 14 日 住友生命いずみホール	出演：藤岡幸夫（指揮）、都築由美（司会）、関西フィルハーモニー管弦楽団 ロッシーニ：《セビリアの理髪師》序曲、ビゼー：《カルメン》組曲から抜粋、ブラームス：ハンガリー舞曲第 5 番（指揮者体験コーナー）、ベートーヴェン：交響曲 第 5 番ハ短調 op. 67《運命》、J. シュトラウス：ラデツキー行進曲（アンコール）	目標値 実績値	600 名 223※
3	シューベルト交響曲全曲演奏会特別企画レクチャー・コンサート「シンフォニーは一夜にしてならず」	令和 4 年 9 月 11 日 住友生命いずみホール	出演：堀朋平（お話）、佐藤卓史（ピアノ、お話）、石橋栄実（ソプラノ）、福西　仁（テノール）、清木ナツキ（フルート） 『喪失と慕情「未完成」の部』『山麓がきこえる「大ハ長調」の部』の 2 部構成で、先行する歌曲、器楽曲を例示し、交響曲の創作の源泉をたどるレクチャーコンサート。	目標値 実績値	600 375※
4	住友生命いずみホール音楽講座　作曲家・西村朗が案内するクラシック音楽の愉しみ方 XIII	令和 5 年 1 月 18 日 住友生命いずみホール	出演：西村朗（作曲家、お話）、竹内晴夫（ヴィオラ）、林　裕（チェロ）、碇山典子（ピアノ）、安藤史子（フルート）、上田希（クラリネット）、石井理子（ハープ） 曲目：ドビュッシー：アラベスク第１番、亜麻色の髪の乙女、夢、雨の庭、月の光、シランクス、 狂詩曲第１番、チェロ・ソナタ、フルート、ヴィオラとハープのためのソナタ	目標値 実績値	640 578

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

２．自己評価

（１）妥当性

自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

「地域文化の拠点」として、ミッション「世界とのドア」「地域とのつながり」を実現するべく、令和４年度は公演事業（９）、人材養成事業（１）、普及啓発事業（４）を計画。上半期を中心に新型コロナウイルスの影響がある中で、中止することなく全事業を実施することができた（普及啓発事業の無料イベントの定員は感染拡大防止の観点から縮小を余儀なくされた）。

設置目的	音楽による社会貢献	
ミッション	「世界とのドア」	「地域とのつながり」
ビジョン	【１】独自性があり他のホールではできない主催事業の開催	
	【２】発信力の強化「より広く」「より深く」	
	【３】地元アーティストとの協働	
	【４】「誰もがクラシック音楽に親しめる」音楽文化の拠点	
	【５】次世代の音楽文化の担い手の育成	
	【６】ネットワークの活用と強化	
	【７】経営基盤の安定化	

地域の特性を踏まえ、ミッションを具体化する「７つのビジョン」（※表）を設定し、各事業それぞれに合致する項目について、目標と連動させ、主に以下のような成果を得られたと考えている。

- 公演事業では在阪オーケストラとの連携など、大阪、関西ゆかりのアーティストの公演を軸にした事業を中心に、大阪・関西の実演芸術の振興と音楽文化発信に寄与することができた。
- 人材養成事業では、次世代の演奏家に学びの機会を提供できた。
- 普及啓発事業では、幅広い方々にクラシック音楽に親しみ、知見を広げる機会を提供することができた。

当助成の対象公演を通じて、ミッション「世界とのドア」「地域とのつながり」を実現できたと考えている。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

住友生命いずみホールは民間ホールであるが「音楽による社会貢献」を理念に、設立以来一貫して「地域の公共財」として、中規模ホールの特性を活かした独自の事業を実施している。

令和４年度は大阪府・市からそれぞれ、大阪府芸術文化振興補助金（公演事業３～６、普及啓発事業３）、大阪市芸術活動振興事業（公演事業２、８）の対象事業として支援を受けた。このことは地域の文化拠点として、府・市の「文化振興計画」が指し示す将来像「文化自由都市大阪」実現の一翼を担っていることを評価して頂いていることを示していると考えている。

また、民間財団（花王芸術・科学財団、三菱 UFJ 信託芸術文化財団、野村財団、日本室内楽振興財団）からも助成を受けており、「世界とのドア」「地域とのつながり」をミッションに掲げた当ホールの事業を評価・支援していただいていることの証左と考えている。

公演事業の核である「シューベルト交響曲全曲演奏会」は、事業の独自性から多くの記事に取り上げられ、音楽クリティッククラブ賞・本賞を受賞した。大阪・関西の音楽文化の発展に寄与することができたと考えている。

（２）有効性

自己評価
目標を達成したか。

「地域の中核＝大阪・関西のクラシック音楽文化の拠点」としての機能を強化、実演芸術の振興とクラシック音楽文化の発展に寄与することを目指し、「世界とのドア」「地域とのつながり」の二つのミッションを掲げて取り組んだ。目標達成度の指標は下表のとおりで、ほぼ達成できたと考えている。

【公演事業】

「独自性があり他のホールではできない主催事業の開催」【ビジョン１】を中心的目標に設定。
堀朋平（ホール音楽アドバイザー）、西村朗（いずみシンフォニエッタ大阪音楽監督）、ミシェル・ブヴァール（フランス・オルガン音楽の魅惑シリーズ・プロデューサー）をはじめとする、専門家の全面的な協力を得て全９事業を実施した。目標の達成度を測るための指標は、ほぼ達成できたと考える。

【人材養成事業】

「次世代の音楽文化の担い手の育成に資する」【ビジョン５】を主眼にミシェル・ブヴァールのマスタークラスを開催した。パイプオルガンを備えるホールとして、オルガニスト養成に貢献することは重要な使命の一つである。指標は概ね達成できた。

【普及啓発事業】

「誰もがクラシック音楽に親しめる音楽文化の拠点」【ビジョン４】を実現する事業として、「地域とのつながり」に重点を置き、クラシック音楽文化の裾野を広げる取り組みとして、安価、または無料のレクチャー付きの演奏会を実施した（全４事業）。予備知識がなくともクラシック音楽に親しんでいただく機会、親しむきっかけの提供、子どもの鑑賞・体験機会の拡充、障がい者の社会参画機会を確保することで、‘クラシック音楽の聴き手の裾野拡大’に取り組んだ。

新型コロナウイルスの影響で募集人員を縮小した影響で、応募人数・参加人数については指標には届かなかったが、初めての来場者の割合が多く、新たな客層の開拓にもつながったと考える。

公演事業の指標達成度	目標	実績
【指標①】入場者数	4,407	4,683
【指標②】会員数	3,000	3,028
【指標③】記事数	70	58
【指標④】SNS（Twitter）　ツイート数	600	639
平均インプレッション	3,000	3,227
フォロワー数	2,900	3,252
【指標⑤】YouTube　いずみch	550	656
ISO Ch	600	664
【指標⑥】HPビュー数	1,000,000	1,221,038
【指標⑦】学生券入場者数　（平均人数）	-	21
【指標⑧】アンケート満足度（%；平均）	-	96

人材養成事業の指標達成度	目標	実績
【指標①】受講生人数	4	6
【指標②】聴講者数	60	57
【指標③】ウェブ聴講者数	40	-
【指標④】SNS（Twitter）　ツイート数	600	639
平均インプレッション	3,000	3,227
フォロワー数	2,900	3,252

普及啓発事業の指標達成度	目標	実績
【指標①】応募人数（１～３平均）	700	460
【指標②】参加人数（１～４合計）	2020	1528
【指標③】SNS（Twitter）　ツイート数	600	639
平均インプレッション	3,000	3,227
フォロワー数	2,900	3,252

（３）効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
いずれの事業も数年前から綿密なリサーチと準備を重ねている。「コロナ禍」の影響による中止もなく、当初の計画通りに全事業を実施することができた。十分な準備期間を取ることで、下記のような工夫で、事業の特色を生むことができていると考える。 在阪オーケストラとともに取り組んだ「シューベルト交響曲全曲演奏会」（公演事業３～６）は、一人の指揮者が異なる楽団と同時期に共演する点、堀朋平によるプログラミング（単に８曲を順番並べるのではなく、各回にテーマを設定し、単独のプログラムとしても成立するものとして実施）などの特色を出すことができた。関連企画としてレクチャーコンサート（普及啓発事業３）では、他のジャンル（主に歌曲）から交響曲創作への思考を導き、作曲家の魅力をより深く理解していただけるよう工夫した。 いずみシンフォニエッタ大阪は長期的なビジョンを持って選曲をしている。定期演奏会（公演事業２、８）の曲目は音楽監督・常任指揮者・演奏家らが加わる委員会での合議で数年先を見据えた準備を進めている。「現代音楽の普及に資する」という楽団の性質上、同時代の音楽の聴き手を増やす取り組みも非常に重要で、「音楽講座」（普及啓発事業４）を実施。西村朗による作曲家ならではの解説で名曲を紐解き、未来を見据えた音楽への理解を促す取り組みとしている。 ホールの音楽的資産でもあるパイプオルガンは独仏のレパートリーに対応できる機能を備えている。この特長を発揮できるよう、従来からのバッハ作品への取り組みに加え、フランス音楽をテーマに加え、両輪として事業を展開している。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。
支出については、全事業ともほぼ計画通りの執行となった。 いっぽう、コロナ禍の影響から完全に脱却できておらず、チケット収入が伸び悩んだ。より多くの方に来場していただくことはチケット収入の確保につながるほか、「地域の中核＝大阪・関西のクラシック音楽文化の拠点」として芸術文化の普及に資することと考えており、この点は今後の課題である。

（４）創造性

自己評価
地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。
住友生命いずみホールでは、オープン以来、故・礒山雅音楽ディレクターとの協働で「現在」を支点に「音楽の原点」と「音楽の未来」を見据え、海外アーティストの紹介、研究を踏まえた知見を紹介する企画などに取り組んできた。「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」の助成事業を中心に、地域の文化拠点としての役割を果たすべく、現在は音楽アドバイザーの堀朋平がその役割を担っている。 いずれの事業も、準備段階から専門家の全面的な協力を得ており、事業の質と独自性につながる工夫をし、広報にも注力している。その結果、助成事業を中心に、令和４年度内に１２５件のホール事業に関する記事が新聞・雑誌、インターネットメディアに掲載された。 令和４年度の「シューベルト交響曲全曲演奏会」（公演事業３～６、普及啓発事業３）は指揮者・山田和樹が在阪の４つの楽団（大阪交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団）を指揮することで話題となったほか、堀朋平によるプログラム構成（単に８曲を順番並べるのではなく、各回にテーマを設定し、単独のプログラムとしても成立するもの）にも注目が集まった。ホール会員向けの事前勉強会を開催するなど、シューベルトの芸術の理解を深めていただけるよう工夫したほか、シリーズ全公演で堀朋平と山田和樹のプレトークを実施。演奏をより深くお楽しみいただけるように、当日のプログラムの狙いや聴きどころなどをお伝えした。広報活動にも注力し、事前記事でも多く取り上げられたほか、事後に特集記事が組まれた（音楽の友、MOSTLY CLASSIC、日本経済新聞）。また、年末の回顧記事でも当シリーズへの言及があった（MOSTLY CLASSIC、日本経済新聞）。 いずみシンフォニエッタ大阪の活動も事前の広報活動に、常任指揮者の飯森範親、プログラム・アドバイザーの川島素晴が登場。各回のソリスト、客演指揮者とともに公演に向けてのインタビューに応じ、公演前に多数の記事がメディアに掲載された。 また、一般に難解と思われている「現代音楽」への興味を広げるため、いずみシンフォニエッタ大阪では定期演奏会に先立ってプログラムアドバイザー川島素晴による解説動画や、事前の曲目解説の公開を行っている。当日もプレコンサート、プレトークなど演奏者を身近に感じるイベントを開催するなど「現代音楽」にたいするハードルが低くなるよう工夫を継続している。2015 年に Youtube チャンネルを開設、委嘱新作を中心にアーカイブ配信を実施している。音楽講座（普及啓発事業４）へのメンバーの出演も、いずみシンフォニエッタ大阪の活動を広めつつ、ホールの特性を生かした地域の文化拠点としての活動である。 パイプオルガンの次世代の演奏家の育成に資するためにマスタークラスを実施（人材養成事業１）、受講生から成績優秀者２名に令和５年４月実施のオープンハウスに出演を依頼、演奏機会の確保と提供、また地域の方々にパイプオルガン演奏に触れていただくきっかけ作りに繋がった。 話題づくり、公演への評価（批評等）からも地域の文化拠点として、音楽文化振興に寄与できたと考えているが、令和４年度は「シューベルト交響曲全曲演奏会」がホールと山田氏共同で「音楽クリティッククラブ賞」本賞を受賞、いっそうの役割を果たしたと考えている。

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。
公演事業では「世界とドア」と「地域とのつながり」を実践するため、国内外で活躍するアーティストの公演と、大阪からの文化発信をバランスよく実施することを目指した（「シューベルト交響曲全曲演奏会」、「いずみシンフォニエッタ大阪」、「ロータス・カルテット」）。「オルガン・マスタークラス」（人材養成事業）では若手のオルガニストの研鑽の現場を一般の方にもご覧いただいたほか、公演事業に付随するリハーサル見学会を開催（「いずみシンフォニエッタ大阪定期演奏会」、「シューベルト交響曲全曲演奏会」）。想定以上の来場があり、芸術の創造の現場をじかに感じていただく機会を提供できた（シューベルトシリーズの見学会は特に青少年を主要な対象に設定した）。普及啓発事業には毎回「初めて足を運んだ」方が多くおられた。 当ホールでは、「公演の記事化→SNS で発信→公演・ホールの周知、公演来場」というサイクルを描く広報を実施している。また、SNS は常時稼働し、公演前にはアーティストの発信した情報のリツイートも併用するほか、公演終了後は来場者の感想のリツイートも実施している。公演事業、人材養成事業では SNS フォロワー数、インプレッション平均を目標達成の指標にも導入しており、着実に数を伸ばしている。 前項に述べたように、助成事業をはじめ令和４年度内に１２５件のホール事業に関する記事が新聞・雑誌、インターネットメディアに掲載されている。「シューベルト交響曲全曲演奏会」（２５件）、「いずみシンフォニエッタ大阪」（２７件）を中心に、これらの話題をＳＮＳで拡散、集客に活用する取り組みを継続的に実施している。 助成事業を含めた全事業で来場者にアンケートを実施。指標として、アンケート回答の「満足度」を設定したが（公演事業）、「とても満足」「やや満足」が平均で９６％を占めている。以下、自由記述の感想を一部抜粋する。 「プログラムの構成とそれ以上の演奏に満足した」「作品の素晴らしさを伝え下さった演奏者、解説してくださった方々が素晴らしい」「大阪の各オケの一所懸命な熱演に心打たれました」（シューベルト交響曲全曲演奏会シリーズより抜粋）、「いずみホールのオルガンの魅力を最大限に引き出した最高のオルガニストでした」（フランス・オルガン音楽の魅惑）、 プログラムも工夫されてて今までで １ 番の感動「食わず嫌いのところもありましたがクセナキスを聴いてから、現代音楽が聴けるようになりました。いずみシンフォニエッタ大阪の演奏会はプログラムの構成からよく練られている」（いずみシンフォニエッタ大阪） このように、制作の際のコンセプトやお届けしたいものを受け取っていただける方々に、繰り返し来場いただけていることが、別項目の回答（来場回数）にも表れており、複数回来場の割合が高い。ホール主催事業に期待をもっていただいていることがうかがえる。 いっぽうで来場回数についての設問では、毎回一定数「初めて」の回答がある。普及啓発事業では特に割合が高い。新しい来場者が常に加わることで、音楽文化の聴き手の裾野が広がっていると考えている。 アンケート結果からも話題性・公演の質の両面からホール主催事業への期待と評価を読み取ることができ、大阪・関西における実演芸術等の振興と文化芸術の発展に一定の役割を果たしていると考えている。

（５）持続性

自己評価
事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
1.事業運営・経営戦略 当ホールの目的は「クラシック音楽の普及等を通じて音楽文化振興に貢献すること」であり、「世界とのドア」と「地域とのつながり」というミッション実現のため事業運営を行っていくことは不変である。そのために地域のニーズを汲み取り、芸術性を高めるため不断の努力を続けている。 上記実現のためには安定的な財務基盤が必要であるが、住友生命からの毎年の財団への寄付金 385 百万円（当ホール分見合いとして 199 百万円）が収入の約半分を占める安定基盤である。令和２年度よりホール名を「住友生命いずみホール」に改称し、住友生命との強固な連携を対外的に打ち出している。事業収入、貸ホール収入、協賛金の増収、ブランドを高めるため住友生命との連携を深める取組みを継続している。 地域のニーズを汲み取り、芸術性を高めていくことが、事業収入、貸ホール収入や有料会員（フレンズ）会費の増収につながり、併せて、本助成金、政府・自治体や民間団体の助成金・補助金の実施主旨に応えることになると考えている。ただし、お客様へのアプローチ方法等、ＰＤＣＡサイクルの中で絶えず戦略の見直しを行っていく。 2.人事戦略 財務基盤と人材が事業運営のための両輪である。そのために安定雇用（終身雇用）を前提とし、職員２８名中２０名が直接雇用・正規雇用職員である。平均年齢４６歳、平均勤続年数１８年、長期でキャリアパスを築ける仕組みになっている。一方で内向きの業務遂行となるリスクもあり、社外研修への参加、社外団体との交流を継続、若手の登用、新規採用も検討している。大阪音楽大学への講師派遣等も職員のスキルアップにつながっている。 新型コロナウイルスの影響を受け、業務が現場主体でありながら政府のテレワーク要請にいち早く応え、かつ職員の安全安心のため在宅勤務可能なシステム環境を整え、現在も継続している。 3.ネットワーク 劇場・音楽堂関係団体、公立文化施設協会、姉妹ホール、教育機関等のネットワークを有しているが、新型コロナウイルスの影響を受けて社外との接触を避ける運営を行っている。大阪音楽大学（ミュージック・コミュニケーション学科「音楽ホール運営論」）の講師として職員派遣を継続している。 4.ＰＤＣＡ 令和２年度新設した営業部と、企画部で連携し、「ＤＸを用いた顧客とホールの新しい接点作り」を軸に販売戦略を練り、日々見直している。 上記ＤＸのほか、調査・研究なども含め「コロナ禍からの再生」をテーマに事業に取り組んでいくことで持続的な発展が得られると考えている。 ５.顧客の拡大 予定通りの事業実施もさることながら、昨年度実施した「フレンズ」オンライン入会とネットに特化した低廉なプランの創設、チケット販売システムの改良、会員向けの動画配信等の影響で、会員数を「コロナ禍以前」まで戻すことができた。引き続き、サービスの拡充で顧客の確保と拡大に結びつけたい。